



バケツで水をかけられ、逃げる子どもたち

【正月の伝統行事】

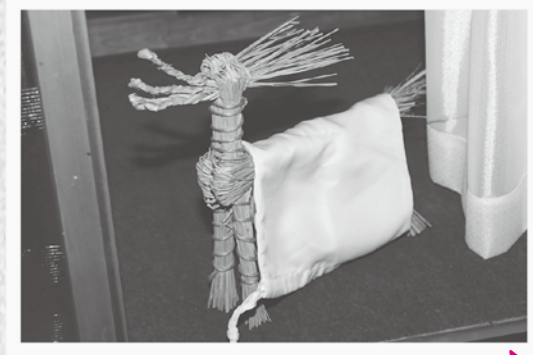
とろへい

「ふんやん、ふんやん」。夜に紛れ、聞こえてくる怪しげな声。

飯南町の小正月に古くから行われている「とろへい行事」。



張戸のとろへい



縁側におかれたワラ馬

AR
動画

子どもたちが福を届ける行事

とろへいは、二年の最初の満月の夜(小正月)に福の神が来臨し、人々に祝福を与えるという古い民俗信仰に基づく、新春の行事です。中国地方の山間部で昔から伝えられてきており、三次市や庄原市などでは「とろへい」、鳥取県「ホトホト」、山口市「トイトイ」などと呼ばれています。

飯南町では、子どもが福を運ぶ使者となり、「とろ」と、「とろ」と唱えながら、地域の家々を訪問。こっそりと家の縁側などに手作りのワラ馬を置き、いったん物陰などに隠れて家の人の様子をうかがいます。

家の人は、ワラ馬のお札に、みかんやお菓子、お餅などのお供え物を用意して待ち構えます。そして、タイミンクを見計らって、お供え物をとりに戻ってきた子どもたちに、「福を運ぶ使者」の来訪を祝って水をかけます。清めの水にぬれた子は、1年間の無病息災が約束されると語られています。

このワラ馬は、一年の福を運ぶ縁起のよい使者、「家の守り神」として、次の年のとんどさ

んまで神棚や床の間、牛を飼育している家では牛舎などに保管されます。

地域行事として伝承される「トロヘイ」かつては、飯南町の各地で行



地元の子も先生役で、大村市の子もと一緒に馬づくり

われていましたが、現在行われているのは頓原の張戸地区と長谷地区です。

頓原の張戸地区では、近年、友好交流都市の長崎県大村市の子もたちとの交流事業として、頓原公民館の協力により開催されています。今年、町内と大村市の子もたち34人が、5つのグループに分かれて張戸地区の10戸を巡りました。

長谷地区のとろへい行事は、今から30年以上前、昭和50年代に始まりました。子どもも減少で開催されなかった年もありましたが、現在まで伝承されてきました。はじめは、子ども会の行事として始まりましたが、現在は、子ども会と老人



30年以上前に、長谷地区でとろへいを始めた那須繁弘さん

も前から受け継がれてきた伝統の行事が、子どもたちに確かに受け継がれています。少し前まで、とろへい行事をやっていたという地域も多し。来年は、あなたの地区でもとろへい行事を復活させてみませんか？

会の世代間交流事業として開催されています。行事の当日は、朝9時に長谷公民館に、保育所に通う子どもから高齢者まで幅広い世代25人が集まり、一緒に馬作り。夜は、午後6時から子どもたちが4つのグループに分かれて長谷地区の31戸の家々を訪れました。

新年の夜に、ひびく子どもたちのにぎやかな声。何十年



ずらりと並んだワラ馬

ワラ馬のつくりかた



1 まずは口の部分を三つ編みでつくります



2 続いて、首と前足をつくります



3 次に、胴体とうしろ足、しっぽをつくります



4 とろへいのワラ馬の完成!